

「ONE-TEAM」となって
地域力を生かし
輝かしいあつまを目指す



厚真町長
宮坂 尚市朗

2020年の幕開けを迎えるにあたり、町民の皆さまに謹んでごあいさつを申し上げます。

旧年中は、皆さまから町政諸般にわたり特段のご理解ご協力を賜り、改めて心より感謝申し上げます。

胆振東部3町に未曾有の被害をもたらした北海道胆振東部地震からすでに1年4カ月が経過しました。この間、全国・全道の行政機関などから多大なご協力と全国各地から物心両面にわたり温かなご支援を賜りました。また、昨年9月7日に令和元年北海道胆振東部地震厚真町追悼式を開

催し、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りし、併せて厚真町復興に向けて決意を新たにしたいところでもあります。甚大な損害を被りながら、これまで懸命に日常生活やなごりの復旧に努めてこられた町民の皆さまには、改めて心からの敬意と感謝を申し上げます。さまざまな苦難を乗り越え、昨年の春には、農地に種や苗が植えられ、やがて緑色から黄金色へと変わる景色に、町民の皆さまも心癒され、励まされたことと思います。

町内では、災害復旧に向けた国の直轄砂防緊急工事、勇

払東部国営かんがい排水事業復旧工事、北海道の治山・砂防工事、農地堆積土砂の撤去、厚真町の災害廃棄物処理、統合浄水場その他公共土木工事が急ピッチで進んでいます。

一方で、まだ多くの方が仮設住宅や被災住宅でご不便な生活を余儀なくされており、不安な日々を過ごしていることも被災地としての現実です。一刻も早く、恒久的住宅対策や公共的施設の復旧と必要な宅地の耐震化を進め、心のケアにも取り組んでいかなければなりません。昨年の11月に策定した厚真町復旧・復興計画第1期は被災者本位の土地利用計画や災害復旧関連事業の取り組みが中心となりました。本年は、当該計画をもとに災害公営住宅や公営住宅などの建設と社会福祉施設の移築促進に全力を挙げて取り組んでまいりますとともに、PTSD対策も優先課題として必要な対策を講じてまいります。この計画は全体の基本方針として「住まい・暮らしの再建」、「なりわい（仕事）の再生」、「災害に強いまちづくり」を掲げており、今

後は住民参加の下、地域再生計画を中心とした第2期、復興フェーズの重点事項を中心とした第3期計画策定作業を通じて本町の復旧、復興の歩みを加速してまいります。

昨年も、全国各地で台風第15号、台風第19号により、多くの犠牲者を出し、多くの家屋が浸水するなど甚大な被害が発生しました。改めて被災された方に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。私たちは、自然の猛威にあらがうすべを持ちませんが、防災、減災という視点や復元力を高める対策に引き続き粘り強く取り組んでいかねばなりません。そのキーワードは地域力であり、住民主体であるコミュニケーションの充実、安全安心という観点から大変重要であると考えています。昨年、日本国内で各種のスポーツ世界大会が開催され、ラグビー日本代表チームの目覚ましい活躍は、私たちに勇気と希望を与えてくれました。本年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、北海道においてもマラソン、競歩の競技が札幌市で開催されます。また、6月には

厚真町を含む胆振東部3町で聖火リレーが実施されることになっています。令和という新しい時代に、新しいドラマが生まれ、新しい歴史がつづられていきます。

北海道胆振東部地震という悲しいできごとを体験した厚真町ですが、たくさんの方々の応援と町民が「ONE-TEAM」となって乗り越え、復興のページをつづっていくことが、先人から令和を生きる私たちに託されたバトンなのだと思います。先達者が築き上げてきた郷土あつまを再び輝かせ、町民が心からの笑顔を再び取り戻す日まで、遠く険しい道のりではありますが、フロンティアスピリッツを心に一歩一歩着実に歩みを進めてまいります。重ねて町民の皆さまのご理解とお力添えを賜りますようお願いいたします。

結びに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。といたします。

皆さんとスクラムを組み

ふるさとの復興へ前進



厚真町議会議員
渡部 孝樹

町民の皆さまに謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆さまには、ご家族お揃いで新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

厚真町に未曾有の被害をもたらした北海道胆振東部地震から2度目の新春を迎えますが、犠牲となられた方々とそのご遺族に對しまして、ここに改めてお悔やみを申し

上げ哀悼の意を表します。

昨年は、震災後初めての作付けということで、農業者にとっては不安でいっぱいであったことと思われませんが、天候にも恵まれ、総じて良好な出来秋を迎えることができたことに、まず議員一同安堵と喜びを感じたところであります。

昨年を顧みますと、一年の世相を象徴する「今年の漢字」

に「全」が選定されました。

皇太子徳仁さまが新天皇にご即位され、平成から令和へと元号が変わった特別な年となったとともに、本町におきまして、復興元年を合言葉に官民あげてふるさと厚真の輝きを取り戻す初年となる記憶に留めておくべき年であったかと存じます。

さて、被災された町民の方々が元の生活を1日でも早く取り戻すため、昨年の11月に厚真町復旧・復興計画第1期が策定され、住まいの再建の支援策、復旧事業の概要などが示されました。今後、同計画は第2期、第3期の策定に引き継がれ、将来の厚真を描く道しるべが示されていきます。議会といたしましては、ふるさと厚真の復興に向け、町民の気持ちに寄り添い、耳を傾け、意向を尊重し、過去、現在、未来にわたる町民の方々が夢と希望を持ち、安心して暮らせるまちづくりのため、力を傾注してま

いります。

今年の夏には、昭和39年（1964年）の東京オリンピック以来、56年ぶりの夏季大会となる東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、マラソンと競歩競技におきましては札幌市を会場に行われます。それに先立ち、6月には北海道聖火リレーが行われ、被災地であった胆振東部3町にも聖火の灯火が巡ってくることになっています。先の震災で、道内、国内、そして海外からもたくさんのお見舞いの言葉や義援金などの支援をいただきました。そのご厚情に報い感謝の意味を込めて、復旧・復興に向けて元気に頑張っている厚真町の姿をテレビなどのメディアを通じてぜひ発信してもらいたいと考えています。

厚真町議会は、昨年の改選から議員定数（11人）に1人不足を生じておりますが、新たな体制でスタートしまし

た。議員一丸となってふるさとの復旧・復興に取り組んでいく所存であります。昨年、国民の心を熱く揺さぶった、ワールドカップラグビー日本代表の心・技・体が一体となった果敢なプレーのように、町民、地域、行政、議会などがしっかりとスクラムを組み、「ワン・あつま」でキラリと輝くふるさとの復興に向けて一歩一歩着実な歩みを進めていきたい気持ちでいっぱいでありたい。今を生きて私たちがふるさとの復興を通じて、美しく住み良い厚真の郷を次世代に引き継ぐことが私たちに課せられた使命であると常々感じているところでもあります。

どうか本年も相変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。と、年頭から町内各所に鳴り響く槌音が、町民の皆さまの健康で幸多き祝音となることをご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

公職選挙法の規定により、議員から町民の皆さまへの年賀状は失礼させていただいております。